



コレクション展
絵のなかに生きる ー中・近世の風俗表現
 Living on Paper

Daily Life as Expressed by Japanese Medieval and Pre-Modern Painters

2010年11月23日(火・祝)～12月23日(木・祝)
 [休館日] 月曜日

根津美術館では、2010年11月23日(火・祝)から12月23日(水・祝)まで、コレクション展「絵のなかに生きる ー中・近世の風俗表現」を開催します。本展ではさまざまな人の姿を描いた屏風や絵巻、掛幅など室町時代から江戸時代中期にいたる絵画の優品約30点を展示します。

日々の営みや遊び、行事にたずさわる人間の姿、すなわち風俗の表現は、絵画において重要な位置を占めてきました。日本でも古く古墳壁画に宮廷女性の様子が描かれたのをはじめ、物語絵巻の主題や添景として多様な人の姿が描かれ、それらは中世末期以降は名所絵や都市図のなかに散りばめられました。人の姿、風俗の表現は、絵画の主題の壁を越えるオールマイティーな存在だったのです。

そうしたなかで、風俗そのものに焦点をあてた作品も制作されるようになります。とくに桃山時代から江戸時代初期(17世紀前半)は風俗画が飛躍的に発展し、制作された時代を冠して寛永風俗画と呼ばれる作品群も生まれました。

本展では、寛永風俗画の優品「風俗図」(重要美術品)や桃山時代の作品「宇治橋図屏風」などに描かれた風俗表現に目を向け、中・近世の絵画を楽しんでいただきます。

企画展示

展示室 1、2



重要美術品 風俗図(部分) 3幅 江戸時代 17世紀 根津美術館蔵

禿をとまなう遊女と、彼女の様子をうかがう二人の男を描いた三幅対。人物の姿態と視線の効果、艶かしい描写によって、恋の鞘当てとおぼしき人間模様が描きだされている。寛永風俗画の一角を占める作品。



うじぼしずびょうぶ
宇治橋図屏風 2曲1隻 桃山時代 16-17世紀 根津美術館蔵

宇治橋を中心に、右下の平等院をはじめ、周辺の寺社や景物を描いた屏風。日々の労働や参詣・遊樂に時を過ごす人々の姿が描きこまれた、いわば宇治の名所風俗図である。



重要美術品 かさはり こむそうず いわきまたべえ
傘張り・虚無僧図 1幅 岩佐又兵衛筆
江戸時代 17世紀 根津美術館蔵

世に「うきよ浮世又兵衛」と呼ばれた岩佐又兵衛の作品。端正的確な墨法、金泥を併用したニュアンスに富んだ霞、ぴりっとしまった人物描写に、又兵衛の魅力が発揮されている。



かわざそうしえまき とさみつのお
蛙草紙絵巻 1巻 伝土佐光信筆 室町時代 16世紀 根津美術館蔵

ある男が、床下に閉じ込められていた蛙を助け、その蛙の怨念のために病に伏していた裕福な家の娘の婿になるという御伽草子おとぎぞうしを描いた絵巻。軽快な風俗描写は、室町時代の絵所預・土佐光信の特徴を漂わせている。

テーマ展示

展示室5「小袖の文様」



円に花葉模様裂(辻が花) 桃山時代 16世紀 根津美術館蔵

こそで きれじ 小袖の裂地コレクションから、つじがはな 辻が花と呼ばれる桃山時代の絞り染めの名品や、鹿の子絞りと刺繍を併用した江戸時代初期の優美な作品など約20点を展示します。

展示室6「歳暮の茶」



ねずみたんけい
鼠短檠 江戸時代 19世紀 根津美術館蔵

いどころろ 井戸香炉「此の世」、瀬戸大海茶入「節季」、せつき 鼠短檠など、年の瀬に、無事に一年を過ごせた喜びを分かち合う「歳暮の茶」で用いた茶道具の取り合わせをご紹介します。

[関連情報]

◆講演会

「京の遊び ―根津美術館蔵〈洛中洛外図屏風〉を中心に」

日時 11月27日(土) 午後2時から午後3時30分

講演 野口 剛(根津美術館 学芸主任)

場所 根津美術館 講堂

定員 140名 応募者多数の場合は抽選となります。

〈申し込み方法〉往復はがきに、住所、氏名(返信面にも)電話番号を明記のうえ、
〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1 根津美術館「絵のなかに生きる 講演会」係にお申込み
ください。11月6日(土) 締切(当日消印有効)

※参加希望者1名につき1枚の往復はがきでお申し込みください。

※聴講は無料ですが、入館料をお支払いください。

◆ギャラリートーク

12月3日(金)、12月17日(金)

※いずれも午後1時30分より約45分間 イヤホンガイドを使って行います。

※当日先着30名様に限らせていただきます。

※午後1時よりホールにて整理券を配布します。

※入館料を別途お支払いください。

[開催概要]

- 【展覧会名】 「絵のなかに生きる ―中・近世の風俗表現」
【開館期間】 2010年11月23日(火・祝)～12月23日(木・祝)
【開館時間】 午前10時～午後5時 [入館は午後4時30分まで]
【休館日】 毎週月曜日・展示替期間
【入館料金】 一般1000円(800円) 学生800円(600円)
* 20名以上の団体、身障者手帳提示者および同伴者1名は200円引き
* 小・中学生以下は無料
【前売券】 一般900円 学生700円
* 10月9日(土)～11月14日(日) 「南宋の青磁」展 開催期間中、
美術館ミュージアムショップにて販売
【アクセス】 地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線〈表参道〉駅下車
A5出口(階段)より徒歩8分、B4出口(階段とエスカレーター)より徒歩10分、
B3出口(エレベータまたはエスカレーター)より徒歩10分
【住所】 〒107-0062 東京都港区南青山6丁目5番1号
【お問合せ】 TEL 03-3400-2536(代表)
<http://www.nezu-muse.or.jp>

[展覧会リリース、広報画像はホームページからもダウンロードできます]

【リリースPDF】 <http://www.nezu-muse.or.jp/jp/press/>

【広報画像ダウンロード】 <http://www.nezu-muse.or.jp/jp/press/download/>

<次回展>

墨宝 ―常盤山文庫名品展 2011年1月8日(土)～2月13日(日)

実業家菅原道済が蒐集した美術品の中から、墨蹟・水墨画を中心とした優品をご紹介します。

<リリース・広報のお問い合わせ>

担当：鎌倉/朝倉/白原

TEL(学芸・広報/直) 03-3400-2538 / 携帯電話(鎌倉) 080-6622-2536

FAX 03-3400-2436 MAIL: press@nezu-muse.or.jp